

証券コード：5907

第56期(中間期)

# 株 主 通 信

2016年4月1日 ▶ 2016年9月30日



JFE コンテナ 株式会社

# 株主の皆様へ

## ご挨拶

株主の皆様には日頃より格別のご支援を賜り有り難く厚く御礼申し上げます。

さて、当社の第56期（中間期）株主通信をご高覧いただくにあたり、ご挨拶申し上げます。

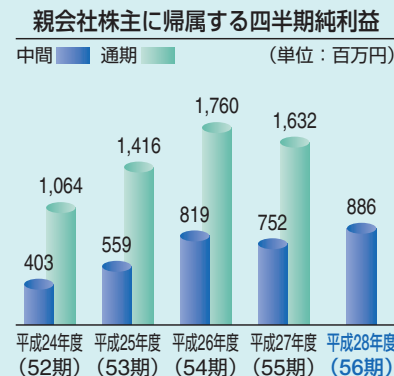
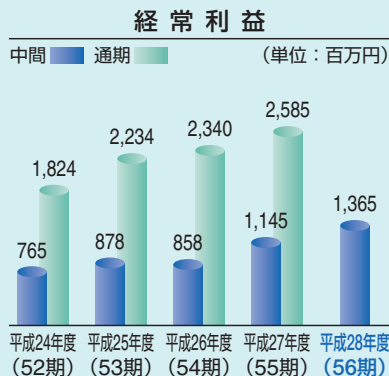
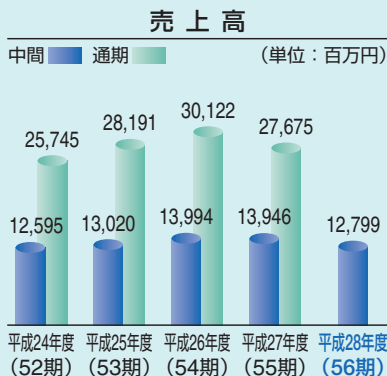
当中間期におけるわが国経済は、力強さを欠くものの緩やかな持ち直し基調にあります。ただし足元では製造業は熊本地震の影響一巡から自動車分野が改善した一方、円高による輸出低迷などを受けて、在庫調整が遅れる一般機械では悪化しております。また、非製造業は公共事業や再開発事業を背景に建設関連は堅調な一方、内需の低迷が長期化するなか、物流、情報通信分野は悪化しております。

当社グループの事業分野である産業用容器業界におきましては、主要需要家である化学・石油業界が、引き続き設

備の統廃合や一部停止など国内事業の構造改革を進めております。このような状況の下、当中間期の全国の200リットル新缶ドラムの販売数量は、前年同期比0.8%減の6,488千缶となりました。出荷の8割を占める化学業界向けは減少しましたが、堅調な建築関連に支えられた塗料業界向けを中心に、石油・食品業界向けの増加で、全体では微減となりました。

このような需要環境の下、当中間期における当社グループの連結業績につきましては、売上高127億99百万円（前年同期比8.2%減）、営業利益13億36百万円（同18.6%増）、経常利益13億65百万円（同19.2%増）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は8億86百万円（同17.8%増）となりました。

## 決算ハイライト（連結）



売上高は、前年同期に対し国内・中国でのドラム缶販売価格の低下に加え、中国事業の売上高が元安による為替差で大きく落ち込んだため減収となりました。営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益は、国内ドラム缶販売数量の回復と徹底したコストダウンにより増益となりました。なお、当期は特別損失として、中国で発生した火災による災害損失を23百万円計上しております。

なお、当社は、昨年、中期経営計画（2015年度～2017年度）を策定いたしました。目標達成のための重点施策を着実に実行しており、計画を上回るペースで収益面での基盤強化が進んでおります。

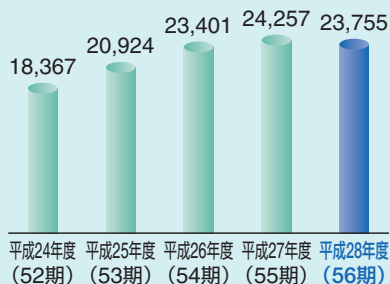
株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長  
小野 定男

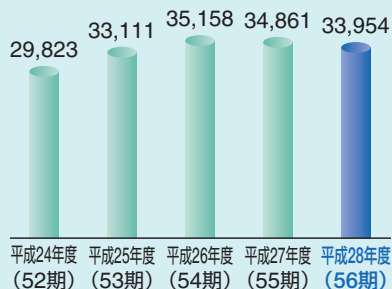
### 純資産

(単位：百万円)



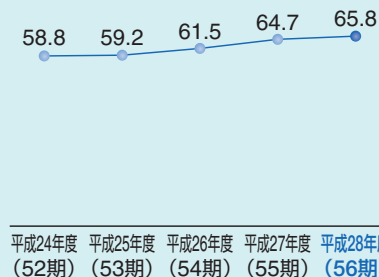
### 総資産

(単位：百万円)



### 自己資本比率

(単位：%)



※純資産、総資産、自己資本比率の52期～55期は3月末、56期は9月末であります。

## ドラム缶事業

当中間期の当社グループのドラム缶販売数量は、国内2,450千缶（前年同期比5.5%増）、中国2,123千缶（同0.6%減）、合計4,573千缶（同2.6%増）となり、売上高は126億24百万円（同8.8%減）、経常利益は14億4百万円（同13.0%増）となりました。

国内ドラム缶事業は、昨年度の販売数量減少から回復したものの、販売価格の低下により売上高は前年同期比横ばいとなりました。損益は販売数量の回復に加え、品種構成の改善や生産性向上、固定費を中心とした工場コストダウン、管理経費の削減等を行った結果、増益となりました。

中国ドラム缶事業は、中国経済減速による販売数量減少と鋼材価格の急騰および、元安による為替差影響により減収減益となりました。グループ全体のドラム缶販売数量に占める中国の比率は46.4%（前年同期47.9%）となりました。

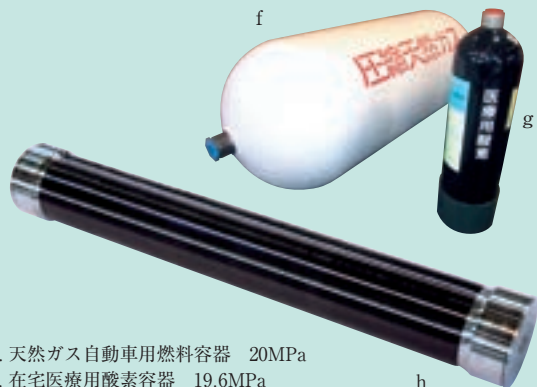


- a. 一般缶…一般的なドラム缶で、石油・化学関係等に使用されている
- b. S-オープン…強度に優れたリユースオープンドラム缶
- c. ケミドラム…ポリエチレンの内装と鋼製の二重構造の缶
- d. エコフェザー…高張力鋼板を使用した薄肉ドラム缶
- e. ステンレスドラム缶…長期間（20年程度）使用可能なリユース缶

## 高圧ガス容器事業

当中間期の業績は、売上高は1億74百万円（前年同期比69.5%増）、経常損益は64百万円の損失（前年同期は73百万円の損失）となりました。CNGV関連事業につきましては、国内は15年載せ替え需要を捉えた販売が順調に推移しておりますが、タイ事業は、原油価格の下落によるCNGVのガソリン車およびディーゼル車に対する経済優位性の低下および経済不振によるCNGV販売が落ち込んだままであり、厳しい収益状況が続いています。医療用酸素容器につきましては、国内での高齢化と在宅医療の拡大に伴う需要増に対応した生産能力向上対策を実施し、着実に数量を伸ばしております。また、燃料電池自動車に関しましては、NEDOの「水素利用技術研究開発事業」として水素ガスステーション用蓄圧容器の開発を行っております。2018年度までに水素ガスステーションへの設置を目指して順調に進展しております。

天然ガス自動車用高圧ガス容器、医療用酸素容器、高圧水素ガス容器それぞれのビジネスチャンスを的確に捉え、早期の黒字化を目指してまいります。



- f. 天然ガス自動車用燃料容器 20MPa
- g. 在宅医療用酸素容器 19.6MPa
- h. 水素ステーション用蓄圧容器試作品（40L）

# トピックス

## ドラム缶新商品（コンセプトドラム缶）について

当社は本年ドラム缶の新商品として、6つのコンセプトドラム缶を提案いたしました。

当社のコンセプトドラム缶は、「シーズをニーズへ」を開発の基本概念として、これまでにない技術・発想・アイデアや従来から蓄積した当社の技術を用いて開発した商品です。いずれも試作品の段階ですが、お客様に実際に「見て・触って」いただくことでご意見・ご要望をお聞きし、それを今後の開発・商品化へ繋げてまいりたいと考えています。

### ICタグドラム缶

ICタグによって、内容物管理、物流管理や在庫管理など、受け入れから出荷までの管理の効率化が図れます。

### クリーン新口金

口金に潤滑効果の高い被覆を施すことで、口金の開閉の際の摩擦を大幅に低減でき、さらに作業性の向上や開閉に伴う金属カジリの防止に効果があります。

### こびりつカン

ドラム缶の内面皮膜の表面構造の改良や表面組成の改善により、粘着性のある内容物が内面にこびりつくことを防ぎます。

### 残さ極小ドラム缶

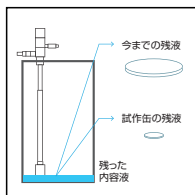
大栓の真下の地板のへこみが、ポンプ排出したあとの残りの量を、約2リットル減らします。

### レリーフドラム缶

胴に浮き彫り模様が加工した缶で、胴のパネル強度が向上します。

### 高意匠プリント缶

あらかじめプリントした鋼板を使用することで、従来にない个性的かつ美しい外観のドラム缶を実現しました。



残さ溜りによって、液残りが大幅に減少します。

口金の真下に、液溜りに向けてわずかな傾斜が設けてあります。



目立つ外観で、一目で判別できます。



内面は、外面と凹凸が逆になります。



お客様のアイデア次第で圧倒的な存在感を演出します。

# 中間連結財務諸表（要約）

## 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

科目	第56期中間期 平成28年9月30日現在	第55期 平成28年3月31日現在
<b>(資産の部)</b>		
流動資産	<b>16,721,013</b>	<b>16,369,670</b>
固定資産	<b>17,233,804</b>	<b>18,492,095</b>
有形固定資産	14,524,517	15,694,847
無形固定資産	439,470	525,860
投資その他の資産	2,269,816	2,271,386
資産合計	<b>33,954,818</b>	<b>34,861,765</b>
<b>(負債の部)</b>		
流動負債	<b>8,047,956</b>	<b>8,297,197</b>
固定負債	<b>2,151,356</b>	<b>2,307,546</b>
負債合計	<b>10,199,313</b>	<b>10,604,743</b>
<b>(純資産の部)</b>		
株主資本	<b>22,245,064</b>	<b>21,502,009</b>
資本金	2,365,000	2,365,000
資本剰余金	4,649,875	4,649,875
利益剰余金	15,239,264	14,496,209
自己株式	△9,074	△9,074
その他の包括利益累計額	<b>89,599</b>	<b>1,044,874</b>
その他有価証券評価差額金	160,693	124,627
為替換算調整勘定	102,424	1,112,177
退職給付に係る調整累計額	△173,518	△191,929
非支配株主持分	<b>1,420,839</b>	<b>1,710,136</b>
純資産合計	<b>23,755,504</b>	<b>24,257,021</b>
負債純資産合計	<b>33,954,818</b>	<b>34,861,765</b>

## 中間連結損益計算書

(単位：千円)

科目	第56期中間期 平成28年4月1日から 平成28年9月30日まで	第55期中間期 平成27年4月1日から 平成27年9月30日まで
売上高	<b>12,799,819</b>	<b>13,946,050</b>
売上原価	9,294,372	10,551,071
売上総利益	<b>3,505,446</b>	<b>3,394,979</b>
販売費及び一般管理費	2,169,276	2,268,532
営業利益	<b>1,336,170</b>	<b>1,126,446</b>
営業外収益	113,690	146,978
営業外費用	84,072	127,827
経常利益	<b>1,365,788</b>	<b>1,145,597</b>
特別損失	23,714	—
税金等調整前四半期純利益	<b>1,342,074</b>	<b>1,145,597</b>
法人税等	447,804	362,590
四半期純利益	894,269	783,006
非支配株主に帰属する四半期純利益	8,017	30,586
親会社株主に帰属する四半期純利益	<b>886,252</b>	<b>752,419</b>

## 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科目	第56期中間期 平成28年4月1日から 平成28年9月30日まで	第55期中間期 平成27年4月1日から 平成27年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	<b>1,858,780</b>	<b>1,581,520</b>
投資活動によるキャッシュ・フロー	△292,461	△798,769
財務活動によるキャッシュ・フロー	△227,612	△775,385
現金及び現金同等物に係る換算差額	△141,085	42,872
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	<b>1,197,620</b>	<b>50,238</b>
現金及び現金同等物の期首残高	<b>3,178,066</b>	<b>2,336,712</b>
現金及び現金同等物の四半期末残高	<b>4,375,687</b>	<b>2,386,951</b>



# 会社情報・株式情報

会社所在地	〒101-0064 東京都千代田区猿樂町1丁目5番15号
電話番号	03-5281-8511 (代)
設立年月	昭和36年4月
資本金	2,365,000,000円
従業員数	259名
発行済株式数	28,675,000株
決算日	3月31日
株式上市市場	東京証券取引所 市場第二部
業務内容	ドラム缶、高圧ガス容器の製造・販売

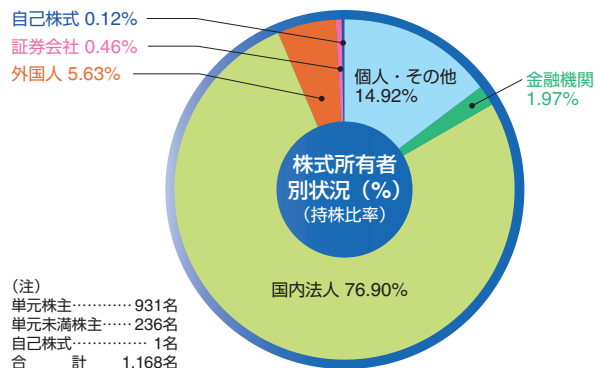
## 取締役および監査役 (平成28年9月30日現在)

代表取締役社長	小野定男
常務取締役	大崎恭紀
常務取締役	久保正幸
常務取締役	加藤篤
取締役	安達広志
取締役	岡部隆
取締役	吉田直人
取締役	木原幹人
取締役(社外)	實川正治
監査役(常勤)	永岡利孝
監査役(社外)	宮城順一
監査役(社内)	萩山英志
監査役(社外)	井田陽彦

## 株式の状況

発行可能株式総数	56,000,000株
発行済株式の総数	28,675,000株
株主数	1,168名

## 株主分布状況



## 大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
JFEスチール株式会社	15,482	54.06
伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社	3,218	11.24
JFE商事株式会社	1,534	5.36
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	1,258	4.39
京極運輸商事株式会社	636	2.22
JFEコンテナ社員持株会	486	1.70
THE HONGKONG AND SHANGHAI BANKING CORPORATION LTD - HONG KONG PRIVATE BANKING DIVISION -CLIENT ACCOUNT	224	0.78
山口 淳一	202	0.71
渡辺 政子	180	0.63
横浜容器工業株式会社	175	0.61

(注) 持株比率は、自己株式(35,496株)を控除して計算しております。

## 事業所一覧 (平成28年9月30日現在)

- 本社 / 〒101-0064 東京都千代田区猿楽町1丁目5番15号 猿楽町SSビル  
TEL.03-5281-8511 (代) FAX.03-5281-1225
- 新潟営業所 / 〒950-0885 新潟市東区下木戸2丁目4番20号 JFE協和容器 (株) 内  
TEL.025-274-0371 (代) FAX.025-274-0375
- 大阪支社 / 〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目25番13号 KS大阪江戸堀ビル  
TEL.06-6225-1670 (代) FAX.06-6225-1675
- 千葉工場 / 〒260-0826 千葉市中央区新浜町1番地  
TEL.043-261-3381 (代) FAX.043-264-8239
- 川崎工場 / 〒210-0862 川崎市川崎区浮島町9番2号  
TEL.044-266-3251 (代) FAX.044-276-1410
- 堺工場 / 〒590-0977 堺市堺区大浜西町9番1号  
TEL.072-238-4231 (代) FAX.072-222-0870
- 水島工場 / 〒712-8073 倉敷市水島西通1丁目1955番地  
TEL.086-448-3737 (代) FAX.086-448-2615
- 高圧ガス容器工場 / 〒210-0862 川崎市川崎区浮島町9番2号  
TEL.044-266-3254 (代) FAX.044-276-1757

## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月に開催
定時株主総会および 期末配当の基準日	3月31日
中間配当基準日	9月30日
臨時基準日	必要ある場合にあらかじめ公告のうえ設定
1単元の株式の数	1,000株
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
取次事務	取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店 および全国各支店で行っております。

### <住所変更、単元未満株式の買取のお申出先について>

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

### <未払配当金の支払について>

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

### 公告の方法

電子公告 (当社ホームページに掲載)

[アドレス] <http://www.jfecon.jp>

※事故その他やむを得ない事由が生じたときは、  
日本経済新聞に掲載して行います。

「株券の保管振替制度」  
関係手続きのご照会先

お取引先の証券会社

## ホームページのご案内



<http://www.jfecon.jp/>



JFE コンテイナー 株式会社